

平成 30 年度教員向け人材育成講座の実施結果について

1 概要

- (1) 日 時 平成 30 年 7 月 31 日 (火) 9:30~12:00
- (2) 場 所 逸見小学区
・講義：逸見コミュニティセンター (学習室)
・FW：逸見コミュニティセンター ⇔ 逸見ほたるの里
- (3) 参加者 参加者 13 名 (申込者 14 名)
- (4) 講師 NPO 法人三浦半島生物多様性保全 理事長 天白 牧夫氏
講師補助：天白 麻衣氏
- (5) 内 容 教員向けの環境学習講座として、逸見小学区で身近な自然を教材とした授業づくりについて、講義とフィールドワークを交えて学んだ。

2 講座概略

- (1) 講義 9:30~10:10
「学区の自然環境を俯瞰しよう～こんなに身近に生物多様性ホットスポットが!?～」
パワーポイントを使用しながら解説
- (2) フィールドワーク 10:20~11:30
「かけがえのないこのまちの生態系 逸見小学区を事例に」
講師の解説を聞きながら、逸見ほたるの里までフィールドワーク
- (3) 質疑応答、まとめ、アンケート記入 11:30~12:00

3 参加者の意見 (抜粋)

- ・自然観察の楽しさを子どもに伝えられるよう示してもらうことができた。
- ・逸見の奥にこんなに自然が残っていたとは知らなかった。とても勉強になった。
- ・子どもたちに教えてあげると、きっと興味を持つのだろうと思った。見る目を養いたい。資料などもいろいろ紹介していただいていたありがたい。
- ・身近な自然でも足元に目を向けると、発見がたくさんあった。自分の学校の周りにも自然があるので、意識して触れていきたいと思った。子どもたちが「学区には自然はないだろう」と、言っていたので、教えてあげたいと思った。
- ・川をよく見てみたり、鳥の声に耳を傾けてみたりすると、たくさんの生き物がいると思った。自分の学区にはどんな生き物がいるのかも調べてみたいと思った。
- ・駅からすぐの逸見のまちにこんなにも豊かな自然が残されているのかと、驚いた。勤務している学校にも、もっと豊かな自然が残っているはずなので、子どもたちが、その自然の豊かさ大切さに気づき、それを守っていこうという思いを持てるよう授業づくりに取り組んでいこうと思う。
- ・シリーズ化し、いろいろな学校で観察会を催して欲しい。

4 まとめ

教育委員会教育研究所に協力していただき、定員 30 名で募集をかけたところ、13 名（申込者は 14 名）の参加があった。

アンケートから、実際にフィールドに出て体験することで、子どもたちにも伝えられるという意見が多くあった。今後も地域にある場所を研修場所として選択し、授業につなげられるテーマを提案することが重要であると感じた。

まとめの時間に環境教育・環境学習の事業紹介を行ったが、初めて耳にする教諭も多くいたように感じた。講座後、この事業紹介がきっかけとなり、自然観察会の申し込みが 1 件あった。学校に資料等を配付しても、実際に授業を行う教諭全員の手元に届くのは難しいため、このような機会に事業紹介を行い環境教育・環境学習事業を広められるよう考えていきたい。

[写 真]



(写真 1) 講義の様子



(写真 2) フィールドワークの様子



(写真 3) 逸見ほたるの里



(写真 4) 道端の葉で草笛体験